

和 わ 和

第8号

発行・編集 奈良県障害者スポーツ指導者協議会
 〒636-0344 奈良県磯城郡田原本町宮森34-4
 奈良県心身障害者福祉センター内
 TEL 0744-33-3393 FAX 0744-33-1199
 ホームページ http://narakyougikai.holy.jp/
 メールアドレス narakyougikai@fm.holy.jp
 現在の会員登録数 232名(上級7名 中級45名 初級171名 平成23年10月31日現在)



ふれあいスポーツフェスティバル
 ~ぼくにもやらせてよ!~

高さと広さを求めて

奈良県障害者スポーツ指導者協議会
 会長 近藤 脩

明けましておめでとう
 ございます。
 早いものでまたオリ
 ンピック、パラリンピッ
 クイヤーがやってきま
 した。私たちに多くの
 感動を与えてくれた北
 京パラリンピックから、

もう四年が経とうとし
 ています。今年のロン
 ドンパラリンピックで
 はどんな選手が活躍す
 るでしょうか。またど
 んな競技種目が多くの
 皆さんの関心を呼ぶの
 でしょうか。私たちは

あると教えられてきま
 した。しかし近年では
 参加することはもちろ
 ん素晴らしいことだ
 が、それよりも勝ち負
 が、メダルの色や数ば
 かりが大きく報道され
 るくらいがあります。
 これはマスコミの報道
 のあり方に大きな問題
 があると思います。
 オリリンピックでもパ
 ラリンピックでも一人
 ひとりの選手がそこに
 出るまでにはどんなに
 生懸命練習を重ねてき
 たか、その陰には家族
 や職場などのみなさん
 の大きな支えが必要で
 あったことなどにも思
 いを巡らして応援した
 いものです。奈良県が
 らもロンドンパラリン
 ピックを目指して最後
 の追い込みをしている
 選手もいると聞いてい
 ます。私たち障害者ス
 ポーツ指導者協議会と
 しても、これらの選手

オリリンピッ
 クでは勝
 負はもち
 ろんです
 が、参加
 することに
 意義があ
 ります。

が素晴らしいパフォー
 マンスを見せていた
 けるよう期待しつつ、
 応援したいと思いま
 す。さて、昨年は当協
 会としては「一人ぼつ
 ちの障害者をなくす」
 ことを合言葉にスポ
 ツデーや出前教室に
 取り組むことを目標に
 掲げてきました。成果
 としてはまだその緒に
 いたばかりであって決
 して十分なものではあ
 りません。そういう中
 で、11月に開かれた
 「ふれあいスポーツフェ
 スティバル」では百数
 十名の参加者があり、
 取り組み次第では多く
 の障害者のみなさん
 の要望に沿えることを
 示しています。また当
 協議会のみなさんの方
 サポート抜きにこのよ
 うなフェスタの成功は
 なかったでしょう。
 この一年間の経験を
 生かして、本年はより
 大きな成果を出せるよ
 うに頑張りたいと思
 います。
 みなさん方のご健勝
 とご活躍をお祈りし、
 年頭のご挨拶とします。

水泳

4つのメダル獲得 もっと欲しい 練習量

監督 島岡 眞

今回の「おいでませ！山口大会」へは、4名の選手と3名の役員の7名で参加しました。また、現地では役員、ボランティアの方が3名、選手のサポートにあたってくれました。

競技の結果は、金メダル2個、銀メダル1個、銅メダル1個の成績をあげることができました。また、惜しくもメダルを逃した選手も自己

「東日本大震災復興支援」を掲げた第11回全国障害者スポーツ大会（おいでませ！山口大会）は、昨年10月22日から24日まで山口県で開かれました。本県から陸上、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ソフトボールの6競技に33選手、1チームが参加。金メダルを陸上で1個、水泳で2個、アーチェリーで1個、卓球で

おいでませ！山口大会 帯同記

1個、計5個を獲得、さらに3位までに13選手が入る健闘ぶりでした。そこでこの成果を生かすために、監督・コーチの皆さんに選手選考や強化方法、競技環境の整備など、反省点を含めて今後の課題を振り返っていただきました。

ベストを上回る記録を出すことができて、みんなそれぞれの結果に満足できた大会であったと思います。競技によって会場が違っているので、日中は別行動でしたが、宿

舎が一部の選手、役員を除いて同じだったので、夕食を一緒にするなど選手の交流も図ることができました。また、ベストコンディションでレースに参加できるよう体調の管理などにも気を配りながら一緒に過ごしました。



今回の大会で一番感じたことは、練習量の不足でした。県外の施設でしっかりと練習を積んだ選手もいましたが、他の選手は

3回の強化練習だけでほとんど練習ができず、現地での公式練習と試合前のアツプ練習が中心で競技に臨みました。指導員として練習時間を作ることができたのですが、仕事があったり、実習があったりして十分に練習ができなかつたようです。それでも素晴らしい成績を残すことができたのは個々の選手の今までに培ってきた力があつたからではないでしょうか。公営の温水プールは何力所があるものの、練習には使いにくいプールがほとんどです。「いつでも、だれでも」が使えるプールの建設を待ち望みます。そして、私たち指導員と一緒にしっかりと練習し、技術と体力の向上など選手の育成ができれば、今後の全国大会で思う存分実力を発揮できるのではないのでしょうか。早くそんな日が来ることを望みます。

ソフトボール

選手のための大会に 警報発表 雨中の1回戦

監督 濱田眞人

これまでの「スポーツ振興法」から、平成23年6月にスポーツの概念や目的、環境などについて国としての考え方を示した「スポーツ基本法」が成立し8月に施行されたことは皆さん周知のことだと思います。この法の前文には「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利」という「スポーツ権」という権利が盛り込まれてい



態になつていました。いったい誰のための「全国大会」なのでしょう。競技役員のため？監督・コーチのため？違うはずですか。この大会のために、

が盛り込まれていまず。権利として認められて以上、国や地方公共団体には競技レベルや性別、年齢にかかわらず、スポーツをする機会、場所を確保する責務が生じる（第2条、3条）ということから読み取れるように、これまで十分に目が配られることがなかつた地域スポー

ツや障害者スポーツの分野にも目が配られることになると期待をしていました。しかし、基本法が成立されたにもかかわらず今回の大会において、一般団体との違いを感じました。事前の打ち合わせよりも1時間早い試合開始、日没にかかるナイター使用の調整を試合中に行う。暴風警報が発表される雨の降りしきる中で試合実施。1時間ルールの試合時間が守られないなど、基本法に権利として盛り込まれていることが絵に描いた餅状

努力を重ねてきた選手のためではないのでしょうか。本当にそのことが理解されたいれば今回のような運営にはならなかつたと考えます。今後、今回のことがスポーツに取り組むすべての方々に生かされることを願っています。最後にになりましたが今回の結果です。1回戦・岡山県との対戦は、暴風警報が発表されており横殴りの雨が降りしきる中、ナイター照明のもと、3回時間切れ3対1で敗れました。翌日、敗者復活戦1回戦・福岡県との対



10月21日(金)午後3時から山口きら博記念公園のサツ

**惜しくも2位
アキユラシー健闘**

監督 森下凌佑

フライングディスク

戦は、14対1で3回
コート勝ち、敗者
復活戦2回戦・青森
県との対戦では、12
対6で4回時間切れ
で勝ちという結果で
した。敗者戦に回っ
たことで、今回参加
した全選手が試合に
出場することが出来
ました。

ディस्कが吹き、
流され苦
戦する選
手がいる
中、奥田
選手は、
神戸市代
表の選手
と白熱し
た展開の
試合をし、
惜しくも
2位とし
すばらし
い成績を
上げるこ
とができ
ました。

カー・ラグビー場
公式練習が始まり今
大会がスタートしま
した。
朝から時折、雨が
強く降るあいにくの
天気でしたが、練習
開始10分ほど前から
雨も上がり、選手そ
れぞれが、フォーム
の微調整をしたり、
力強く投げること
を意識したりと、個々
の目的を持って練習
に取り組めたと思
います。
10月22日(土)ア
キユラシー競技本番
では、練習で取り組
んだ微調整が少しず
つうまくいき練習時
より成績を上げる選
手や、強い風が吹き、

「心」の指導に力
役員としても成長
コーチ 吉本哲郎

陸上

10月23日(日)デイ
スタンス競技に関し
ては、風も少しおさ
まり昨日よりは4選
手ともに、十分、持
てる力を出せたと思
いますが、全国のレ
ベルには届かず、今
後の課題を残す結果
に終わりました。
今大会を振り返っ
て、短い時間ではあ
りましたが、事前練
習でしっかりと課題を
見つけ、調整でき、
奥田選手、松村選手、
田中選手、荒川選手、
それぞれが楽しみな
がら精一杯試合に臨
めたことは良かった
ように思います。
ただ競技としては
ディスタンスの具全
体での技術向上が必
要だと改めて感じま
した。

主に私が引率した選
手は、高等養護学校
の短距離の選手であ
ったが、私には短距離
は専門外である。
「技・体」の指導は
無理にしても、せめ
て「心」の指導だけ
でも頑張ろうと心が
けた。
現地では毎朝5時
半起床後、選手たち
と一緒に朝の散歩。
毎晩短時間ではある
がミーティング。選
手たちとコミュニケーション
をしっかりと取り取
ってチームワークを高
めるとともに、競技
に対して気持ちを集
めた日々に過ごせる
ように努めた。特に
「結果がどうであれ、
一生懸命に取り組ん
だ過程を、これから
先のスポーツ以外の



場面でも役立てほし
い」と、選手たちに
接した6日間であつ
た。
しかし、こうして
選手を指導しようと
すると、まずは自ら
が学ばなければなら
ない。また現地で学
んだことも多く、選
手だけでなく私自身
にも全国障害者スポ
ーツ大会は成長する場
となった。
初級スポーツ指導
員の講習会を受講し
た時、「一度、全国
障害者スポーツ大会
に参加した選手は、
次回も参加したくな
る」という講師の先
生の話が印象に残っ
ているが、選手にとつ
て素晴らしい大会で
あるだけでなく、役
員として参加した私
にとっても、人間的

卓球

**相互理解の好機
大会を実践の場に**

コーチ 矢鋪朝香

成長の機会となり、
「役員としてまた機
会があれば参加した
い」と思わせる大会
であった。
山口県で行われた
全国障害者スポーツ
大会に私は奈良県選
手団役員として参加
する機会を得ること
ができました。そこ
で経験し、感じたこ
とを書かせていただ
きます。
奈良県選手団は他
府県と比べて参加人
数が少なく、団体の
規模も小規模です。
だからこそ小回りが
きき、選手たちは大
きな試合会場で試合
をするだけでなく、
山口県での観光や催
し物に参加すること
もできました。
団体種目は普段か
ら顔見知りの選手が
集まっているので、
コミュニケーション
が取りやすいと思っ
ていました。しかし、
中には初めて顔を合
わす選手もあり、コ

コミュニケーションの
難しさを感じました。
私たち役員が、選手
同士のコミュニケーション
を図ればよかったの
ですが、うまくい
かないこともあり、
悩みました。
また、宿舎で他種目
の選手と同部屋にな
ったことで、そこでも
コミュニケーション
を図ることの難しさ
を痛感しました。
山口県で過ごした
期間にお互いを理解
することができたの
で、とても素晴らしい
機会となりました。
奈良県にいらる間に選
手・役員関係なくお
互いを知るために自
分には何ができるか
を考え始めました。
また、そのような機
会を実践していくこ
とが奈良県代表とし
ての意識が上がり、
団結力が今までは上
に高まるのではない
かと思っています。
今後、このような
機会があれば役員と
してぜひ参加させて
いただきたいと思います。

ミユニケーションの
難しさを感じました。
私たち役員が、選手
同士のコミュニケーション
を図ればよかったの
ですが、うまくい
かないこともあり、
悩みました。
また、宿舎で他種目
の選手と同部屋にな
ったことで、そこでも
コミュニケーション
を図ることの難しさ
を痛感しました。
山口県で過ごした
期間にお互いを理解
することができたの
で、とても素晴らしい
機会となりました。
奈良県にいらる間に選
手・役員関係なくお
互いを知るために自
分には何ができるか
を考え始めました。
また、そのような機
会を実践していくこ
とが奈良県代表とし
ての意識が上がり、
団結力が今までは上
に高まるのではない
かと思っています。
今後、このような
機会があれば役員と
してぜひ参加させて
いただきたいと思います。



12人の新しい仲間誕生

初級指導員養成講習会

23年度の初級障害者スポーツ指導員養成講習会は、12月3日、4日、17日、18日の四日間、奈良県心身障害者福祉センターで開催され、十二人の新しい仲間が誕生しました。

受講したのは若さにあふれた二十歳代の学生から、現場で働く中堅層の理学療法士、支援員、保育士、経験豊かな五十歳代の教職員までパラエティに富み、女性も二人。

講習は「障害者スポーツ概論」「障害者スポーツの意義と理念」から始まり、「障害の理解(知的身体、精神)」、「障害者福祉施策と障害者スポーツ」、「ボランティア論」など七項目の講義と、「障害に心したスポーツの工夫・実践」としてスカイクロス、視覚障害者ハレーボール



フライングディスクの実技を勉強。2日目の「障害者との交流」では、電動車いすサッカーを体験、選手と車椅子に乗ってボールを追い、充実した時間を過ごしました。

特に3日目は朝から実技が続き、冷え切った体育館で初めて体験する競技に挑戦。アイマスクをつけてプレーする視覚障害者ハレーボールは、ボールをネットの下を通して打ち合い、音を頼りにレシーブする難しさに驚きの声を上げていました。

十二人は4月から活動を始めます。

スポーツで絆

初のふれあいスポーツフェスティバル

奈良県主催の「ふれあいスポーツフェスティバル」絆プロジェクト



が23年11月23日(祝)に奈良県心身障害者福祉センターで開かれました。



新たな障害者スポーツ事業の創出、を目標に県が取り組んだ初めての事業で、コンセプトは「人と人がスポーツでつながる」。障害の有無にかかわらず、多くの人がともに参加し楽しみ、交流するスポーツの場をつくる。

初めての事業だけにど

れだけの申し込みがあるが、気がかりでしたが、一五〇人を越える参加があり、大会をサポートする指導員、スポーツボランティアも 四十五人を数え、フロアーは人でいっぱい。

「ふうせんバレーボール」と「スカイクロス」の2種目を楽しみ、6人制のふうせんバレーボールでは、障害のある人、

家族連れ、地域のサークル、若者グループなど、様々なチームが登場して予選、決勝トーナメントで熱戦を展開。

スカイクロスも直径30cmのリングを投げ、ゴールのコーンに輪投げのように投げ入れるソフトゴルフを行い、体育館は歓声に包まれました。

車椅子で参加した男性は「初めて大勢の人とスポーツをしましたが、こんなに楽しいとは。この事業をぜひ大きく育てて欲しい」と話しておられました。

県では23年度はプレ事業とし、24年度から本格実施する計画です。私たちもバックアップしていきます。

「一人ぼっちの障害のある人をなくすために」当協議会は、6月から毎月第3土曜日にスポーツデーを開いています。

「室内ペタンク」は、ルールは野外のペタンクと変わらないうえ、天候に関係なくプレーできる、

半面、ボールがよく転がる体育館のフロアーでは、目標のピユットのその日にボールを止めるのが

は2月18日、3月17日の2回あります。時間は午前10時から正午まで。当日参加OKです。

24年度も継続。ポッチャ、フライングディスクも取り入れる予定です。障害のある人、指導員、スポーツボランティアの皆さん

どしどし参加を！

障害者スポーツデー

競技種目は「ふうせんバレーボール」「スカイクロス」に7月から「室内ペタンク」を加えました。

ボールが柔らかく危険が少ない、など重度の障害のある人も取り組みやすい

野外より難しく、1投ごとの励まし合う声が飛び交います。

このあとスポーツデー